

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成 21 年 4 月 30 日 (2009.4.30)

【公表番号】特表 2008-534724 (P2008-534724A)

【公表日】平成 20 年 8 月 28 日 (2008.8.28)

【年通号数】公開・登録公報 2008-034

【出願番号】特願 2008-503474 (P2008-503474)

【国際特許分類】

C 0 8 F 10/02 (2006.01)

C 0 8 F 4/654 (2006.01)

【F I】

C 0 8 F 10/02

C 0 8 F 4/654

【手続補正書】

【提出日】平成 21 年 3 月 9 日 (2009.3.9)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

エチレン単独又はエチレンとオレフィン  $\text{CH}_2 = \text{CHR}$  (式中、R は水素若しくは 1 ~ 12 個の炭素原子を有するヒドロカルビル基である) との混合物を、下記の触媒系の共存下で重合させることを含む結晶性エチレン (コ) ポリマーの製造法であって、当該触媒系は

(a) Ti、Mg、ハロゲン、OR<sup>I</sup> 基 (式中、R<sup>I</sup> は C<sub>1</sub> ~ C<sub>12</sub> 炭化水素基、場合により、ヘテロ原子を含有してもよい) を含む固体触媒成分及び

(b) 助触媒としてアルミニウムアルキル化合物を含み、

OR<sup>I</sup> / Ti モル比が少なくと 0.5、チタンの量が当該固体触媒成分の総重量に関して、5 重量 % よりも高く、発明の詳細な説明に示す条件で記録した SS - NMR のパターンにおいて、範囲 60 ~ 75 (ppm) に最大を示す 1 以上のシグナル (A) 及び範囲 78 ~ 108 (ppm) で最大を示すシグナル B を示し、比率 I<sup>A</sup> / I<sup>B</sup> (ここで、I<sup>A</sup> が範囲 60 ~ 75 ppm の最大を示すシグナルの積分値であり、I<sup>B</sup> が範囲 78 ~ 108 ppm で最大を示すシグナルの積分値である) が 0.8 よりも高くなるような値である、前記結晶性エチレン (コ) ポリマーの製造法。

【請求項 2】

OR<sup>I</sup> / Ti モル比が 1 よりも大きい、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 3】

エチレン単独又はエチレンとオレフィン  $\text{CH}_2 = \text{CHR}$  (式中、R は水素若しくは 1 ~ 12 個の炭素原子を有するヒドロカルビル基である) との混合物を、下記の触媒系の共存下で重合させることを含む結晶性エチレン (コ) ポリマーの製造法であって、当該触媒系は

(a) Ti、Mg、ハロゲン、OR<sup>I</sup> 基 (式中、R<sup>I</sup> は C<sub>1</sub> ~ C<sub>12</sub> 炭化水素基、場合により、ヘテロ原子を含有してもよい) を含む固体触媒成分及び

(b) 助触媒としてアルミニウムアルキル化合物を含み、

OR<sup>I</sup> / Ti モル比が少なくと 0.5、チタンの量が当該固体触媒成分の総重量に関して、4 重量 % よりも高く、前記固体触媒成分が少なくとも Ti - Cl 結合を有するチタン

化合物を式  $MgCl_n(OR^I)_{2-n}$  (式中、 $n$  は  $0.5 \sim 1.5$  であり、 $R^I$  は上記と同じ意義である) の触媒前駆体と反応させることにより得られる、前記結晶性エチレン(コ)ポリマーの製造法。

【請求項 4】

触媒前駆体とチタン化合物とを反応させることにより得られ、チタンと触媒前駆体の  $OR^I$  との間のモル比が 4 よりも高いような量で使用され、反応温度が  $100$  よりも低い、請求項 3 に記載の方法。